

---

## 日本ガイシ、規制強化にらみNOxセンサーの生産増強

Edited By LogisticsToday On 2012/01/26

---

日本ガイシは25日、自動車の排ガスに含まれる窒素酸化物（NOx）を測定する車載用の高精度NOxセンサーの生産能力を増強すると発表した。今後、世界的に厳しくなるディーゼル車の排ガス規制による需要の拡大に対応して供給体制を確立するため、2014年までに年間生産能力を700万本に増強する。

現在の生産能力は年間240万本だが、増強によって700万本に引き上げるため、小牧事業所とNGKセラミックデバイス（愛知県小牧市）、NGKセラミックスポーランド（ポーランド・グリヴィツェ）に合わせて47億円を投資。2014年1月までに段階的に生産を開始する。

同社と独・コンチネンタル社が開発、商品化した車載用NOxセンサーは、自動車の排気管に装着され、排ガスに含まれる窒素酸化物（NOx）濃度をppm（100万分の1）レベルの高精度で測定できる世界初の製品。

排ガス中のNOx濃度を検知して排ガス浄化装置の制御やその故障診断に使用される。同社が製造するNOxセンサーにコンチネンタル社が制御回路を組み合わせて車載用の最終製品にする。

自動車の排ガス規制は世界的に強化され、特にディーゼル車は、粒子状物質（PM）に加えて、NOxの排出規制も一段と強化されつつある。現在施行されている米国のUS10や欧州のユーロ5規制、日本のポスト新長期規制などに続いて、欧州では2014年以降にユーロ6規制が、中国の一部の都市では2015年以降にユーロ5相当の規制が施行される。

日本ガイシでは「今後拡大していくNOxセンサーの需要にいち早く対応するため、供給体制を整え、NOxセンサーのリーディングカンパニーの地位を確立する」としている。